



歯科放射線科での研修の特色



昭和大学
SHOWA University

歯科放射線科での研修：概説

- 歯科放射線科での研修は、歯科診療に頻用される画像検査・診断および被曝管理について習熟できるように配慮しています。
- センターのため各科から患者さんが集まります。様々な病態の画像診断を研修できます。
- 施設としては、歯科用エックス線撮影装置から歯科用コーンビームCT、超音波検査装置、マルチスライスCTを擁し、様々な画像診断法を研修できるようにしています。
- 以下、それぞれについて詳説します。

研修その1:画像検査法の習熟

- 検査法については以下の項目を研修します
- 基本的な画像検査法の習熟
 - 口内法X線検査およびパノラマX線検査が独自に行える。
 - 歯科用コーンビームCT検査も独自行える。
- 高度な画像検査法の理解
 - MDCT(マルチディテクタCT)による単純CTおよび造影CT検査を指導医や診療放射線技師と共に行いその特徴を理解する。

口内法X線検査

- 口内法X線撮影装置：5台
- IPスキャナ：5台
- 歯科病院はPACSが導入されています。デジタル口内法X線検査が1人で出来るようになるのを目標としています

歯科用X線撮影装置



IPスキャナ

パノラマX線検査

- パノラマX線撮影装置：2台
- FCR (Fuji computed radiography)：1台
- デジタルパノラマX線検査が1人で出来るようになるのを目標としています。
- また、頭部X線規格撮影など他の単純X線検査の介助を行い、その原理を研修します。



パノラマX線
撮影装置



FCR

歯科用コーンビームCT検査

- 歯科用コーンビームCT装置
装置：2台
- 歯科用コーンビームCT検査は歯・歯周組織疾患や歯科矯正の分野で頻用されるようになってきています。研修では歯科用コーンビームCT検査が1人で出来るようになるのを目標としています。

歯科用コーンビームCT
装置



- マルチスライスCT(全身用X線CT診断装置):1台
- マルチスライスCTは腫瘍性病変、蜂窩織炎、インプラント術前検査などに利用されている。指導医、診療放射線技師と共に単純および造影CTに関わり、その特徴を研修します。

全身用X線CT診断装置



研修その2: 読影能力の向上

- 基本的な読影能力の向上

- 歯科放射線科で撮影された画像を読影し画像診断能力の向上を図ります。

口内法X線画像およびパノラマX線画像の読影ができる。

歯・歯周組織疾患の歯科用コーンビームCT画像の読影ができる。



研修その2: 読影能力の向上

• 高度な読影の理解

– インプラント術前検査、顎口腔領域における腫瘍性病変のCTおよびCBCT画像を読影する

• 様々な病変のCTおよびCBCT画像を指導医と共に読影します。

– PACSに保存されている過去画像を

読影し

横(各科の様々な病変)、

縦(1つの病変を経時的に)

に見て画像診断を研修します。



研修その3: 医療放射線安全管理の実践

- 医療で使用する放射線および放射線機器については、社会的にも法律的にも、近年ますます厳格な管理が必要とされてきています。歯科放射線科の研修を通じて個人被曝管理および環境と放射線機器の管理を研修します。
 - 診療放射線業務従事者として、個人被曝管理を研修する
 - 各自がルミネスバッジを使用し被曝管理を実践する
 - (病院)環境の放射線測定を研修する
 - サーベイイメータによる漏洩線量測定を学修します。



おわり